

NACS-J 自然観察指導員講習会

山口 正明（船橋市）

開催日：2015年11月21日（土）～22日（日）

場所：千葉県立手賀の丘少年自然の家（柏市）

開催：＜主催＞日本自然保護協会 ＜共催＞千葉県、千葉県自然観察指導員協議会

参加者：受講生58名（男性33名、女性25名）

講師・スタッフ：16名（NACS-J講師3名、千葉県1名、協議会12名）

講習会の主要プログラム：

11月21日（土）	11月22日（日）
開講式	早朝オプション観察会
野外実習①自然観察の視点	野外実習②自然観察会の企画
講義①自然の保護	野外実習③自然観察会の企画
自己紹介・自然観察ちばの紹介など	野外実習④自然観察会の開催
講義②自然の観察	登録手続き
情報交換会	閉講式

◇1泊2日のぎっしりスケジュール

昨年に引き続き、手賀沼の南に位置する手賀の丘少年自然の家の開催となりました。働く世代や学生の指導員を増やそうという趣旨で、一昨年度から1泊2日に短縮される中、今年も、早朝から深夜までぎっしりの講習会でした。休憩時間がもう少し欲しいとの参加者の声もありましたが、従来の2泊3日から日数が減っても極力中身を維持しようというというのがNACS-Jの方針。終わってみれば、参加者の皆さんにはいずれも達成感にあふれた表情のようでした。参加者は、住所別では千葉県在住者が40人、県外18名。男女比では、男性が33名、女性が25名。昨年に比べると、県外者と女性の割合が増加。また、生物関係専攻の大学院生や理科の教員志望の大学生が、8名ほど参加しました。こういう若者には大いに期待！ですね。

◇佐野由輝さんが鮮烈デビュー

今回、特筆すべきは、協議会の我らの佐野由輝さんがNACS-J講師としてデビューを飾ったことでしょう。講義と野外実習と、大活躍でした。講義では、ずばり、「自然の観察」について。参加者の出身県を予めチェックし、「1位 静岡県……9位 千葉県。これは一体何のこと？」と質問。答えは、「その県にある最も高い山の標高の順位」。そこから千葉県のヒメコマツと寸詰まり現象に話を展開するなど、オリジナリティーあふれる講義でした。夕食後の眠気危険時間帯にもかかわらず、参加者を惹き付けていました。とてもデビュー戦とは思えぬ充実ぶりで、今後、NACS-Jの講習会や行事でひっぱりだこになりそうな予感がします。

◇裏方はてんやわんや、でも勉強に

協議会12名はアシスタントとして、野外実習時の補助、早朝オプション観察会のガイド、参加者の自然観察実習時のアドバイザー役のほか、書籍販売・お茶手配・情報交換会（懇親会）手配など、運営事務全般を担当しました。事前準備も含めて皆さんたいたいへんでしたが、特に三嶋さんのいつもながらの行き届いた各種対応には感謝するばかり。

当日はめまぐるしい2日間で、一部の人は入浴も逃すほど。一同ヘトヘトになりましたが、NACS-J講師による講義や野外実習を通じて、私たち自身も初心に帰ることができたようです。佐野さん以外に、昨年同様、NACS-J職員の福田博一さん、山梨県の時田 恵さんの二人の講義と実習も素晴らしい内容でした。参加者自らに考えてもらう、感じてもらうことの大切さをあらためて気付かされ、解説型の観察会になりがちな点を反省させられました。

自然を守るために、親しむ→知る(調べる)→守る(行動する)というステップが必要で、いつもうまく行くとは限らないが、おかしいことがあれば見て見ぬふりをしないこと、との 時田さんの自らの体験を交えての話にも、考えさせられました。

◇経験の多い参加者が主体に

最近の傾向と思われますが、今回の参加者もほとんどが、自然関係について既に何らかの活動をしているようです。世間での自然関係の活動団体や行事が増えたということでしょうか。昔は、私のようにずぶの素人が講習会に結構参加していましたが、様変わりです。それだけに協議会への加入勧誘も難しくなりましたが、晝間代表のプレゼンも奏功し、今回、協議会に12名が、東葛しぜん観察会には4名が入会されました。初めが肝腎ですので、貴重な新しい仲間に、観察会や研修会への参加を積極的に声掛けしましょう。



佐野講師:落ち葉が土になる過程



早朝観察会:オオイヌノフグリが咲いて~

